

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jimuj@geppou.asj.or.jp 宛、なお、原稿も必ず 0422-31-5487迄 Fax でお送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など)、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他 (待遇など)

九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門  
教官

1. 太陽惑星系科学講座担当教授 1名
3. 太陽地球系物理学 (太陽地球系の物理現象を理論・数値実験・総合解析を主体にした手法で研究し、かつ教育に熱意のある方を希望)。
5. (1) 平成 14 年 4 月
7. (1) 履歴書、(2) これまでの研究概要 (A4 用紙 2 枚以内)、(3) 研究業績リスト (原著論文 (査読の有無)、総説、報告書、著書に区分)、(4) 主要論文の別刷 3 編 (研究業績リストに○印を付す)、(5) 研究・教育に対する抱負 (A4 用紙 2 枚以内)、(6) 応募者を熟知し、意見を聞ける方 2 名の氏名とその連絡先並びに応募者との関係
8. 平成 13 年 10 月 31 日(水)
9. (1)、(2) 〒 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1  
九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門  
太陽惑星系科学講座担当教授候補者選考委員会  
委員長 湯元清文

Tel: 092-642-2673 (ダイヤルイン)

Fax: 092-642-2673 or 2685

E-mail: yumoto@geo.kyushu-u.ac.jp

11. ①提出書類のうち、(4) 以外は全て A4 用紙を使用すること。  
②封筒に「応募書類在中」と朱書し、簡易書留で郵送のこと。

立教大学・理学部・物理学科教員

1. 講師、助教授または教授 1名
2. 立教大学・理学部・物理学科
3. 宇宙物理学の理論的研究
5. 2002 年 4 月 1 日
6. 博士号取得者であること。着任時に 30 代で、情報教育・計算機管理に携われる方が望ましい。
7. (1) 履歴書、(2) 業績リスト、(3) 主要論文別刷 5 編以内、(4) 現在までの研究概要 (1500 字以内)、(5) 研究計画書 (1500 字以内)、(6) 推薦書または照会可能者の氏名と連絡先
8. 2001 年 10 月 13 日(土)必着
9. (1) 〒 171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1  
立教大学理学部物理学科長 平原聖文  
(2) 同学科 柴崎徳明  
Tel: 03-3985-2389  
E-mail: shibazak@rikkyo.ac.jp
10. 封筒に「理論物理学教員応募書類在中」と朱書し、簡易書留で送付のこと。

国立天文台教官

1. 助手 1 名
2. (1) 電波天文学研究系、(2) 東京都三鷹市または長野県南佐久郡南牧村野辺山
3. 宇宙電波分野
4. 当該分野では、45 m 電波望遠鏡やミリ波干渉計等を用いし観測成果をあげつつ、次期計画としてアタカマ大型ミリ波サブミリ波干渉計 (ALMA) 計画を推進しています。そのため、ALMA の技術開発を中心に当該計画を意欲的に推進する若手研究者 1 名を求めます。
5. 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上の方
7. (1) 略歴書、(2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要を含む)、(3) 研究論文リスト (査読論文とそ

の他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと)及び主要論文別刷,(4)研究計画書,(5)本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先

8. 平成13年10月10日(水)必着

9. (1)〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1

国立天文台長 海部宣男

(2)〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山

国立天文台電波天文学研究系主幹 中井直正

Tel: 0267-98-4392 E-mail: nakai@nro.nao.ac.jp

10. 封筒の表に「電波天文学助手応募書類在中」と朱記し、郵便の場合は簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議員会において行います。

ALMA計画については下記を参照して下さい。

<http://www.nro.nao.ac.jp/~lmsa/index.html/>

## 研究助成

## 6. 募集期間

平成13年9月3日(月)から平成13年10月31日(水)《必着》までとします。

## 7. 申請書の申込方法

申請書のお申込みは、E-mailもしくは、FAXにて郵便番号、住所、氏名、電話番号および希望部数を明記の上、ご連絡下さい。また、申請書はホームページからも申込みおよびダウンロードできます。

## 8. その他

申請条件、選考方法、決定通知、助成の対象となる研究者、交付方法、助成交付金、決定後の主な手続き等、その他等はホームページを参照下さい。

財団法人日本科学協会 笹川科学助成金係

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2

日本財団ビル5F

Tel: 03-6229-5365

Fax: 03-6229-5369

E-mail: [jss@silver.ocn.ne.jp](mailto:jss@silver.ocn.ne.jp)

URL <http://www.jss.or.jp>

## 平成14年度 笹川科学研究助成募集要項

## 研究助成結果

### 1. 趣旨

「笹川科学研究助成」は、萌芽性、新規性および独創性のある内容を持った研究を奨励し、他からの研究助成が受け難い研究を全国的に掘り起こすとともに、意欲に満ちた優れた若手研究者の育成ならびにその研究に対する助成を目的とします。

### 2. 対象となる領域ならびに申請区分

人文科学、社会科学および自然科学(医学を除く)、またはそれらの境界領域に関する研究で、上記領域を次の申請区分に分けます。

(1) 一般科学研究

(2) その他(ホームページ参照)

### 3. 研究計画および助成額

研究計画は、単年度(平成14年4月1日から平成15年2月10日まで)内で研究が完了し、成果をとりまとめられるものとします。助成額は1研究課題あたり年間100万円を限度としています。尚、平成13年度は396件の研究計画に助成致しました。

### 4. 募集対象

平成14年4月1日現在、35才以下の者であって、次の条件を満たす者。ホームページを参照下さい。

### 5. 申請の方法

所定の「平成14年度笹川科学研究助成交付申請書」を用いて下さい。なお、申請書の書式はホームページをご覧ください。

## 2001年度 (財)山田科学振興財団研究援助

研究主題: X線による中質量ブラックホールの検出と多波長によるその成長過程の観測的研究

代表研究者: 京都大学大学院理学研究科・助教授  
鶴 剛

助成金額: 200万円

研究主題: 高解像度電波観測による小質量星形成コアの統計的研究

代表研究者: 茨城大学理学部自然機能科学科・助手  
百瀬宗武

助成金額: 250万円

研究会・集案案内

「太陽・宇宙活動デジタルライブ」

京都大学花山・飛騨天文台連携同時一般公開  
のお知らせ

京都大学花山天文台と飛騨天文台では、来たる10月20日(土)に同時に連携して一般公開を行います。施設の公開・展示陳列と天体観望会を行い、また、ネットワークを経由して両天文台で観測された天体画像を相互にリアルタイムで上映します。花山・飛騨天文台で現在行われている最先端の天文学研究を、わかりやすく説明しますので、お気軽にお越し下さいますよう、ご案内申し上げます。

〈一般公開〉

日時：2001年10月20日(土)13時～20時30分

場所(1)：京都市山科区北花山大峰町

京都大学大学院理学研究科附属花山天文台

(2)：岐阜県吉城郡上宝村蔵柱

京都大学大学院理学研究科附属飛騨天文台

公開施設と内容：花山・飛騨天文台の主要な観測施設、研究施設などの公開および展示陳列

天体観望会：

(1)花山天文台

★13時～16時

ザートリウス18cm屈折望遠鏡および70cmシールドスタット分光望遠鏡による太陽像と分光スペクトル観望。また、ネットワークを用いて飛騨天文台で観測された太陽像をリアルタイムで上映。

★18時～20時30分

45cm屈折望遠鏡による天体観望。

(2)飛騨天文台

★13時～16時

ドームレス太陽望遠鏡およびフレアモニター望遠鏡による太陽像と分光スペクトル観望。花山天文台で観測された太陽像のリアルタイム上映。

★18時～20時30分

60cm反射望遠鏡、および、65cm屈折望遠鏡による天体観望および天体画像のインターネット公開。

〈交通機関〉

(1)花山天文台

地下鉄東西線蹴上駅より徒歩30分、

または、京阪三条駅よりタクシー約10分(約1300円)

(2)飛騨天文台

公共交通機関がないので自家用車のみ(高山市から車で約1時間)

〈申し込み方法〉

(1)花山天文台見学は、事前申し込みは不要。

Tel: 075-581-1235

Fax: 075-593-9617

(2)飛騨天文台見学希望の方は、10月13日(土)までに、往復ハガキに住所、氏名、電話連絡先、を書いて申し込む(団体の場合は代表者の住所、氏名、電話連絡先のほかに、見学者の総数と各人の氏名も洩れなく記入のこと)。先着100名まで。

ハガキの宛先は、

〒506-1314 岐阜県吉城郡上宝村蔵柱

京大飛騨天文台

Tel: 0578-6-2311

Fax: 0578-6-2118

〈花山・飛騨天文台のホームページ〉

<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/>

第16回「大学と科学」公開シンポジウム  
『失われた反世界—素粒子物理学で探る』

代表者：名古屋大学大学院理学研究科教授 三田一郎

会期：11月10日(土)10：00～17：00、

11月11日(日)10：00～15：15

会場：仙台市情報・産業プラザ

(仙台市青葉区中央1丁目3-1・アエル内)

参加申込締切：定員(351名)になり次第締切

参加費：無料

内容：反世界が失われた理由である素粒子と反素粒子のズレを説明する、「小林・益川理論」の正しさを裏付けるために、日米の素粒子物理学者たちが最先端の技術での競い合った。このいきさつを語ることをとおして、反素粒子、ズレ、ズレの理論、予言、予言の確認などを説明する(プログラムの詳細は下記HPでご覧下さい)。

参加申込方法：下記事項を記入の上、E-mail、Fax、郵便のいずれかの方法でお申込下さい(HPからできます)。①氏名(性別、年齢)、②職業(勤務先、役職)、③連絡先(住所、Tel、Fax、E-Mail)、④参加希望日時(日付・午前/午後)

申込先：〒164-0003 東京都中野区東中野4-27-37

(株)アドスリー内

『失われた反世界—素粒子物理学で探る』事務局

(担当：福田・石井)

Tel: 03-5925-2840

Fax: 03-5925-2913

E-mail: [info@adthree.com](mailto:info@adthree.com)

URL <http://www.adthree.com>

## 第2回宇宙科学シンポジウム 文部科学省宇宙科学研究所

本シンポジウムは宇宙科学研究所全体に関わることについて理学・工学両者が集まって議論する場です。本年は昨年のテーマを引き継ぐとともに、新たに特別セッション「太陽系の起源と第二の地球探査」を設け、天文学・太陽系科学両者の接点を結ぶ議論をしたいと思ひます。講演をふるって御応募下さるようお願いし  
ます。

開催日：平成13年11月19日(月)～20日(火)  
開催場所：宇宙科学研究所A棟2階大会議室  
内容については以下をご覧ください。

<http://www.isas.ac.jp/j-update/symp/sss2/>

講演申込期限：平成13年10月5日(金)(必着)  
講演申込方法：申込用紙を上記URLから入手し、  
必要事項を記入の上、FaxかE-mailにてお送り  
ください。

講演申込先：世話人・松原英雄(宇宙科学研究所)  
E-mail: sss@ir.isas.ac.jp  
Fax: 042-786-7202

## 会務案内

### 【理事会議事録】

日時：2001年7月7日(土)11時00分～16時20分  
場所：国立天文台 三鷹 講義室  
出席者：田原、唐牛、郷田、大石、松原、立松、大橋、  
上野、茂山、加藤、松元、黒田、山内、吉田  
以上14名  
欠席者：松田 以上1名  
有効委任状提出者：松田 以上1名  
他に、山岡天体発見賞選考委員会委員長、東條事務  
長が参加した。  
議事に先立ち、署名人を選出した。  
議長：田原博人  
署名人：大石雅寿、郷田直輝

### <報告>

1. 前回(2001年3月28日)の理事会議事録が郷田  
庶務理事より報告され、承認された。
2. 2001年秋季以降の年会についての報告  
(1) 2001年秋季年会について

黒田年会開催地理事から、会場を無料で提供して  
くださる姫路市に対して、天文学会年会の共催者に、  
また兵庫県を後援者としてという申し出があり、  
質疑応答ののち、申し出を承認した。さらに、教育  
フォーラム、公開講演会、ジュニアセッションに対  
しては、姫路市教育委員会、兵庫県教育委員会をと  
もに後援者とするのを承認した。また、年会は講  
演会場の都合上、2箇所の建物を使って行うことが  
報告された。茂山年会理事より、講演申込数は、概  
数で、口頭講演が310件、ポスター講演が200件あ  
り、過去最大数であることが報告された。従来の発  
表形態だと、講演時間は合計で90時間、また8会  
場が必要となってしまう。そこで、なるべくパラ  
レルセッションを減らすために、口頭講演(a)の場  
合は口頭発表および質疑応答の時間を合わせて12分  
と従来より減らし、6会場で講演時間は合計70時  
間あまりにおさえたい旨の提案があった。なお、講  
演時間を短縮する場合は講演の募集要項に  
記載済みであり、講演申し込み者にはあらかじめ通  
知済みであることも報告された。議論ののち、この  
提案は承認された。

### (2) 2002年春季年会について

吉田年会開催地理事から日程は、3月28、29、  
30日、公開講演会が3月31日の予定である事が報  
告された。また、公開講演会は茨城県立図書館で行  
われる予定である。

### (3) 2002年秋季年会について

山内年会開催地理事から日程は、2002年10月7、  
8、9日の予定である事が報告された。また会場は、  
宮崎シーガイアコンベンションセンターの予定であ  
る。会場の新しい経営者の経営方針が9月に決定さ  
れるが、経営者が交代しても予算内での開催は可能  
であろうとの報告もなされた。また、公開講演の会  
場は、宮崎銀行の会館または宮崎市民会館を候補と  
している。さらに公開講演会に対して宮崎科学技術  
会館を共催者、宮崎天文協会を後援者として旨の  
提案があり、質疑応答ののち承認した。なお、どの  
団体を後援者とするかは、年会開催地理事からの推  
薦があれば、理事会で議論ののち認めていく方針を  
今後とることを確認した。

### (4) 2003年春季以降の年会について

郷田庶務理事より2003年春季以降の年会に関し  
て以下の報告があった。2003年春季年会について  
は東北大学開催の内諾を得ており、現在の連絡担当  
者は土佐氏である。また、2003年秋季年会につ  
いては、前回の理事会で報告したとおり愛媛大学開  
催(栗木氏が連絡担当)の内諾を得ている。さらに、  
2004年春季年会は、名古屋大学開催の内諾を得る  
ことができ、当面の連絡担当者は佐藤修二氏である。

2004年秋季年会に関しては、国立天文台（水沢）を候補とし、現在交渉中である。

### 3. その他

#### (1) 寄付金に関して

郷田庶務理事より、2001年1月より現在までに天文学会に対して寄付をいただいた方々のリストの紹介があった。

#### (2) 会費督促手数料導入について

立松会計理事より、前回の理事会で次回の評議員会へ提案することの承認を得ている会費督促手数料導入案について、字句などの若干の修正を行った旨の報告があった。さらに、現在の未納金額を文面に書くこと、運営資金が枯渇している状況を訴えるなどの文章を付け加えることが提案され、議論のち承認された。この結果をもとに修正した文案を理事会メールで配布し、次回評議員会に提案するまでに承認を得ることとなった。

#### (3) 学会会員へのサービス向上の例について

会員数を増やこと、および会費の未納金を減らすための対策について大石庶務理事より、学会会員数を増やし、会費収入を増加させるために、学会会員へのサービス向上を考えた方策の例が説明され、意見交換を行った。また、会費の納入方法に関しては、自動引き落としをデフォルトの納入方法にすることが良い方策であることが再度確認され、総会や天文月報誌上でのキャンペーンを大々的に行う等、関係理事の方で検討し、この方策を推し勧めていくことが承認された。

#### (4) 年会開催形態アンケート集計に関して

茂山年会理事より、前回の春季年会で行った年会開催形態に関するアンケートの集計結果について報告があった。開催形態に関してはまとまった意見はないが、何らかの変更が望まれていることは読みとれる。年会実行委員会としては今後も検討をしていき、何らかの新しい形態を提案したい。

#### (5) 第8回アジア太平洋地域会議に関して

第8回アジア太平洋地域会議の組織委員会からの報告が地域会議のLOCである上野月報理事より以下のようになされた。日程は、2002年7月1日に登録、レセプション、7月2日～5日が本会議と決定した。会場は、一橋メモリアルホール。プライマリセッションが4つ、パラレルセッションが6つ予定され、また本会議前後での研究会、ミーティング等は公募する。ファーストサーキュラーは秋に配布予定。IAU京都総会記念基金は、旅費補助の主要な財源として予定している。また、天文学会が所有しているポスターボードを貸し出してもらう予定である。

#### (6) 新賞の制定について

大学院生およびポスドクのみを対象とした研究奨励的な賞の制定に関して、研究奨励賞選考委員会に検討をお願いしているが、蜂巢研究奨励賞選考委員会委員長より、現在まだ委員会で検討中であり、次回までに何らかの回答を出したい旨の報告がきていることが郷田庶務理事から紹介された。

### 〈議題〉

#### 1. 新入会員の承認

郷田庶務理事より、新入会員申込者リストの説明が資料を基にあった。議論ののち、正会員として52名、準会員として16名、賛助会員として1名の入会を承認した。なお、会費未納のため過去に除名になったが再入会の申し込みがあった者についてはその後未納会費を納めたとのことであるので、前回の理事会での決定に基づき、未納会費を納めた時点で遡って会員として承認することとした。

#### 2. 2002年度事業計画案に関して

郷田庶務理事より2002年度事業計画案について説明があった。議論ののち、一部修正の上、次回評議員会に案を提案することが承認された。

#### 3. 2002年度収支予算案に関して

松原会計理事より2002年度収支予算案について説明があった。議論ののち、次回評議員会に原案を提案することが承認された。また、学会の予算は長期的な赤字傾向にあり、運用上の努力や抜本的な改革が早急に必要であることが確認された。関係理事で議論の上、できれば10月の評議員会に改革案を提案する方針で臨むこととなった。

#### 4. 天文功労賞について

継続審議となっている、天文功労賞制定に関する提案に関して山岡天体発見賞選考委員会委員長より説明があった。特に懸案事項となっていた啓発活動を受賞対象とするかどうかは、選考委員会では全員一致で対象とすることに賛成である旨が報告された。これに対して、賞の名称や啓発活動をアマチュアだけに限定することの困難さについて意見が出され、議論された。議論の結果としては、受賞対象に啓発活動を除くということで、本提案を認める。それにより提案された内規案の修正が必要であるが、それは山岡委員長も交えた関係理事で議論し、10月の評議員会に内規案を提案する方針で臨むこととなった。なお、啓発活動に対しては、プロ、アマチュア天文家を問わずに、そのみを受賞対象とした新たな賞を制定する方向で検討委員会を新しく作り、検討を開始するという方針となった。

## 5. 学術用語集増刷について

加藤教育理事より、学術用語集増刷に関する説明があり、また天文学会としてどう対応すべきか、天文教育委員会で検討された意見の紹介も行われた。議論ののち、増訂版には、用語集の内容は流動的であること、またカタカナ表示に関しては柔軟な対応を望む事等を内容とし理事長からの新しいメッセージを付ける。さらに、外来語のカタカナ表示については、場合によっては複数並記することを学会から文部科学省に対して要望することとなった。

## 6. 天文学会 Web ページの管理などについて

郷田庶務理事より、天文学会 Web ページの管理などについて、関係者（鈴木ネットワーク委員、上野月報理事、大石庶務理事、郷田庶務理事、東條事務長、山崎月報担当事務）で6月13日に協議した結果についての報告が以下のようにあった。

(1) Web のトップはネットワーク委員会の管理責任とし、PASJ、月報、年会、教材は各委員長が責任者。実際の運用は、アルバイトの学生等に任せる場合もある。

(2) 早川基金、天文教育委員会は外にリンクしてあるが、今後はなるべく学会の下につけて、学会の責任体制を明確にする。それにともない、学会側でのファイルのバックアップ体制が必要だが、ハードディスクを定期的にコピーすることで対処する。

(3) 理事会、評議員会、総会の議事録は、月報の担当とする。

(4) 会員へのお知らせ、速報などの掲示のページを学会ホームページに設ける（庶務理事担当）。

以上の協議結果に関しては、意見交換ののち、承認された。さらに、天文研連のページを学会の下におくこと、学会が製作するポスターや葉書を宣伝するページの作成が要望され、承認された。

## 7. 天文学会における情報公開について

天文学会における情報公開に関しては、会員の個人情報以外は原則としてすべての情報を公開とし、情報公開の要望、問い合わせ等に関しては庶務理事が窓口となることが再確認された。

## 8. 図書館協会への要望について

会員の方より、理事長宛に、日本十進分類法に定められている未確認飛行物体の分類番号が現在のような天文学の分類に入っているのではなく、他へ変更するよう、その要望書を学会から図書館協会へ出して欲しいとの手紙がきている事の報告が郷田庶務理事より行われた。議論ののち、理事長名で図書館協会へ要望書を出すこととなった。

## 9. 宮崎年会について

宮崎年会においては、JTB が交通・ホテルの手配以外に、依頼すれば年会の登録、懇親会などの事前登録および登録料、懇親会費の事前徴収の作業を無料でしてくれる等の説明が山内年会開催地理事より説明があった。ホテルと会場間のバスの手配、懇親会の準備など人数を事前に把握したいので、なるべく事前登録等を行いたい旨の提案があり、意見交換を行った。結果として、どういう問題点が起こるのかを調査する意味も含めて、宮崎の年会で事前の登録・徴収を試しにやってみることに、詳細は、関係理事で検討を行っていく方針が承認された。

## 10. 秋季通常総会議題について

秋季通常総会の議題に関しては、(1) 2002 年事業計画案、(2) 2002 年収支予算案、(3) 「会費に関する細則」変更の承認、(4) 新評議員の承認、(5) その他としたい旨の説明が郷田庶務理事より説明があり、承認された。

## 11. その他

## (1) tennet 上での営利活動について

現在まで tennet の利用に関して特に規定はなかったが、企業が営利目的に使用する事態が生じたこともあり、原則として営利活動に利用しないよう、学会のホームページに掲載するとともに tennet にも注意を流し、会員へ通知することとなった。

## (2) 賛助会員の年会での出展について

賛助会員が年会で出展する場合、今までは年会会場のみであったが、公開講演会場での出展も会場の許可さえあれば、学会としては認めることとした。

## (3) 記者会見のあり方について

記者会見における発表方法の改善について意見交換を行った。記者会見設定を準備をするにあたっては、学会側で時間、経費、人力をかなり使っており、この問題に関してはじっくりと議論していくことが必要ということが確認され、継続的に審議していくこととなった。また、林忠四郎賞の受賞報告に関しては、受賞者本人に記者会見に出てもらうことが必要であると指摘され、その旨承認された。

## (4) 次回理事会の予定について

次回理事会の予定を以下のように決定した。  
2001 年 10 月 6 日(土)

2001 年 8 月 3 日

議長 田原博人 印  
署名人 大石雅寿 印  
署名人 郷田直輝 印

## 【日本天文学会評議員会議事録】

日時：2001年7月14日(土)11時00分～15時30分

場所：国立天文台 三鷹 講義室

出席者：石黒，井上，上野，岡村，加藤，高津，小平，  
小山，佐藤（修），須藤，長谷川，福江，福島，  
松田，吉田，渡部 以上16名

欠席者：家，池内，奥田，海部，木下，小杉，  
佐藤（勝），鈴木，高原，谷口，中村，野本，林，  
観山 以上14名

有効委任状提出者：家，奥田，小杉，佐藤（勝），  
鈴木，高原，谷口，中村，観山 以上9名。

他に理事会から田原理事長，唐牛副理事長，郷田理事，  
大石理事，松原理事，立松理事，東條事務長が出席。

議事に先立ち，議長に渡部潤一氏を，署名人に  
井上 一氏，長谷川哲夫氏を選出した。

### 〈報告〉

1. 前回（2001年3月27日）の評議員会議事録が郷  
田庶務理事から報告され，承認された。

### 2. 秋季以降の年会について

秋季以降の年会について，2001年7月7日に開  
催された理事会の結果に基づいて郷田庶務理事より  
以下のような説明があった。

#### (1) 2001年秋季年会

会場を無料で提供してくださる姫路市を年会の共  
催者に，また兵庫県を後援者とするを理事会で  
は承認した。さらに，教育フォーラム，公開講演会  
およびジュニアセッションに対しては，姫路市教育  
委員会，兵庫県教育委員会とともに後援者とする  
ことを理事会で承認した。また，年会は講演会場の都  
合上，2箇所の建物を使って行く。今回の講演申込  
数は，概数で，口頭講演が310件，ポスター講演が  
200件あり，過去最大数である。従来の発表形態だ  
と，講演時間は合計で90時間，また8会場が必要  
となってしまふ。そこで，なるべくパラレルセッシ  
ョンを減らすために，口頭講演(a)の場合は口頭発  
表および質疑応答の時間を合わせて12分と従来よ  
り減らし，6会場で講演時間は合計70時間あまり  
におさえたい旨の提案が年会実行委員会より提出さ  
れ，理事会では了承した。

#### (2) 2002年春季年会について

開催地は水戸であり，年会日程は2002年3月28，  
29，30日，公開講演会が3月31日の予定である。  
また，公開講演会は茨城県立図書館で行われる予  
定。

#### (3) 2002年秋季年会について

開催地は宮崎であり，年会日程は2002年10月7，

8，9日の予定である。また会場は，宮崎シーガイ  
アコンベンションセンターの予定である。会場の新  
しい経営者の経営方針が9月に決定されるが，経営  
者が交代しても予算内での開催は可能であろうと山  
内年会開催地理事からは報告されている。また，公  
開講演会の会場は，宮崎銀行の会館または宮崎市民  
会館を候補としている。さらに公開講演会に対して  
宮崎科学技術会館を共催者，宮崎天文協会を公開講  
演会の後援者とするを理事会では承認した。

また，この年会においては，JTBが交通・ホテル  
の手配以外に，依頼すれば年会の登録，懇親会など  
の事前登録および登録料，懇親会費の事前徴収の作  
業を無料で行ってくれる旨の説明が理事会で山内年  
会開催地理事から行われた。さらに，ホテルと会場  
間のバスの手配，懇親会の準備など人数を事前に把  
握したいので，なるべく事前登録等を行いたい旨の  
提案があった。そこで意見交換を行った結果，どう  
いう問題点が起こるのかを調査する意味も含めて，  
宮崎の年会で事前の登録・徴収を試しにやってみる  
こと，詳細は，関係理事で検討を行っていく方針を  
理事会では決定した。

#### (4) 2003年春季以降の年会について

2003年春季年会については東北大学開催の内諾  
を得ており，現在の連絡担当者は土佐氏である。ま  
た，2003年秋季年会については，愛媛大学開催の  
内諾を得ており，栗木氏が連絡担当者である。さら  
に，2004年春季年会は，名古屋大学開催の内諾を  
得ることができ，連絡担当者は佐藤修二氏である。  
2004年秋季年会に関しては，国立天文台（水沢）  
を候補とし，現在交渉中である。

### 3. その他

(1) 郷田庶務理事より，2001年1月より現在までに  
天文学会に対して寄付をいただいた方々のリストの  
紹介があった。

#### (2) 学術用語集増訂について

田原理事長より，学術用語集増訂に対して天文学  
会がどう対応すべきか，7月7日の理事会で決定し  
た事について以下のように説明がなされた。増訂版  
には，用語集の内容は流動的であること，また外来  
語のカタカナ表示に関しては柔軟な対応を望む事等  
を内容とした理事長からのメッセージを付ける。さ  
らに，外来語のカタカナ表示については，場合によ  
っては複数並記することを学会から文部科学省に対  
して要望することとなっている。また，大石庶務理  
事より学術用語集に関する補足説明があった。その  
後，以上の件に対して，意見交換を行い，文部科学  
省には要望をはっきり伝えることが必要である旨を  
確認した。

## 〈議題〉

## 1. 2002年度事業計画案について

郷田庶務理事より2002年度事業計画案について説明があった。また、事業計画のうち、本学会が共催し2002年7月開催予定のIAUアジア太平洋地域会議に対する旅費援助に関して、IAU京都総会記念基金の残額を全額、地域会議に支出することを理事会では承認済みである旨が大石庶務理事から報告された。質疑応答ののち、事業計画案を承認した。

## 2. 2002年度収支予算案について

松原会計理事より、2002年度収支予算案について説明があった。また、IAU京都総会記念基金の支出予定項目である来年開催予定のIAUアジア太平洋地域会議に関して地域会議のLOCである長谷川評議員より説明が行われた。さらに、大石庶務理事より、IAU京都総会記念基金の内規には、国際研究集会一件あたりの援助金額の上限は概ね100万円とするとあるが、地域会議への支出はその上限を上回る金額となる。しかし、それにとらわれずに、地域会議への支出を行いたい、その旨を評議員会で承認してもらいたいとの発言があった。議論ののち、この件に関しては承認を行った。また、収支予算案自体に関して質疑応答の後、原案を承認した。

## 3. 学会収支の改善に関して

学会収支の改善に関して資料をもとに松原会計理事より次のような説明があった。支出に関して様々な経費が高くなっているにも関わらず、会費収入がほとんど変わらないため、次期繰り越し収支差額が年々減少してきている。会員数を増やす等の対策が必要。9月に実務理事会を開き、10月の評議員会に対策案を提案する方針で臨むこととしている。これに対して、主として以下のような意見交換が行われた。

○学生の場合、年会で発表する場合は、旅費の援助も含めると非会員より会員になった方がはるかに得であることをもっと宣伝するべきである。

○正会員（学生）に対しては、会員として認められる期間に期限を設けて、期限が過ぎれば継続手続きをしない限りは自動的に退会とするのがよい。

○システムとして事務手続きがなるべく煩雑にならないよう考慮する必要はある。

○PASJは正会員（学生）には送付しないのが良い。

○PASJの電子版有料化を行い、印刷版を減らすのが良い。

○電子版の運用の詳細に関しては、現在PASJ編

集委員会で検討中である。

○印刷版を減らすと刊行補助金が減額される問題点がある。

○電子版に対しても補助金を支給するように学会から要求するべきである。

○非会員の年会での登壇料をもっと高くし、なるべく会員になってもらうよう努めるのが良策である。

以上に関してさらに議論を行った結果、理事会の方で電子版に対しても補助金を支給するよう関係機関に働きかける必要があるとの意見が出た。また、正会員（学生）として認められる期間に期限を設ける案や非会員の登壇料の値上げ案を9月開催予定の実務理事会で検討してもらうこととした。

## 4. 「会費に関する細則」の変更について

継続審議事項であった会費の督促手数料の導入に関して、立松理事が理事会で承認された案の説明を行った。議論ののち、会費督促料を延滞料と直す、また当該会計年度が1月から12月までであることをあらわに書き込んでおく等の修正を行い、案を承認した。また、正会員（学生）会費についての案に関しても立松理事から説明が行われた。議論ののち、当該会計年度が1月から12月であることを書き込んでおく等の修正を行い、案を承認した。さらに、これら2つの案に伴い会費に関する細則の変更を行う必要があり、変更案に関して立松会計理事から説明があった。議論ののち、細則の変更案を一部修正の上、承認した。また、この規則の運用は理事会で適切に対処し、もし今後問題が出てくれば評議員会に諮問するよう理事会に申し入れた。

## 5. 会費未納の場合の印刷物の送付に関して

会費未納の会員への天文月報、PASJ等の印刷物の送付に関して、議論を行った。その結果、当該会計年度開始（1月から開始）前までに会費を納めていない場合は、1月から印刷物の送付を停止することを決めた。また、会費を滞納していた期間の印刷物に関しては、会費を納入後は受け取る権利はあるが、会員自らの申し出がない限りはその印刷物を送付しないことに決定した。

## 6. 早川幸男基金内規変更について

早川基金内規一部変更について、早川基金選考委員長である須藤評議員より提案があった。先ず、早川基金での渡航費支給内容に関して、従来は往復航空運賃相当額のみ支給しかできなかったが、もよりの国際空港までの国内旅費および空港使用料も含めることができるようにしたいとの変更の方針説明



が須藤評議員より行われた。議論ののち、この方針に関しては承認した。これに伴い早川幸男基金内規の一部を下記のように変更することを議決した。

○第2条の2. 援助金額

目的地までの往復交通費相当額

またさらに、公募を学会誌以外に天文学会のホームページでも行っていることから、本内規の一部を変更する必要があると指摘され、以下のように変更することが議決された。

○第2条の3. 援助対象者の公募

年数回、学会誌等に公募案内を掲載する。

7. 秋季通常総会議題について

秋季通常総会の議題に関しては、(1) 2002年事業計画案、(2) 2002年収支予算案、(3) 「会費に関する細則」変更の承認、(4) 新評議員の承認、(5) その他としたい旨の説明が郷田庶務理事より説明があり、承認した。

8. その他

(1) 新賞について

郷田庶務理事より、新賞の制定に関して理事会で検討した、もしくは検討中の事項の説明が以下のようであった。

(a) 継続審議事項となっている、天体発見以外の大きな貢献に対してアマチュア天文家に対して授与される新たな賞の制定に対しては、理事会より検討を依頼していた天体発見賞選考委員会より案が理事会に提出された。2001年7月7日の理事会で議論した結果、案では啓発活動も受賞対象とすることになっていたが、それは受賞対象には含めないこととした。それに伴い、内規案も変更する必要があると生じ、今後関係理事等で検討し、10月の評議員会に提案する予定である。また、理事会

では啓発活動については新しい賞をつくるならアマチュアに限定しないという結論になり、賞の制定に関しては理事会で今後検討することとなっている。

(b) 2001年1月27日の評議員会で理事会に検討を依頼された女性研究者のみを対象とした賞の制定に関しては、受賞対象者の数が少なすぎる等の問題点が2001年3月28日の理事会で議論され、結論として、この賞の制定に関する検討は理事会としては見送ることとした。(c) (b)と同様に理事会に検討を依頼されていた院生、ポスドクのみを対象とした賞の制定に関しては、理事会での議論では賛否両論あったが、現在は研究奨励賞選考委員会に検討を依頼し、選考委員会で検討中である。

以上の説明を受けて、意見交換を行った。

(2) tennet の利用規程に関して

tennet の利用に関して、「非営利目的に限る」との決定が理事会でなされたことに対して福江評議員が、理事会にその経緯説明などを要望した。これに対して、田原理事長、大石庶務理事が説明を行い、意見交換を行った。その結果、理事会側の意図は理解され、原則的には、非営利目的と規定すること自体は問題はなく、実際の運用は会員の良識に任せて弾力的に行うことが確認された。ただ、会員諸氏に理事会決定の真意が伝わっていない面もあるので、早急にアナウンスを出すことを理事会に申し入れた。

(3) 次回評議員会について

次回評議員会の予定を以下のように決定した。  
2001年10月5日(金)

2001年8月17日

議長 渡部潤一  
署名人 井上 一  
署名人 長谷川哲夫

編集委員 上野宗孝(編集長)、伊藤孝士、上田暁俊、大石奈緒子、太田耕司、

小野智子、斎藤芳隆、土橋一仁、内藤統也、藤田 裕

平成13年9月20日

発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

印刷発行

印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷

定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359(事務室) / 0422-31-5488(月報・欧文編集) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: [jimu@geppou.asj.or.jp](mailto:jimu@geppou.asj.or.jp) DTP: 峯尾由紀子